



都議会議員
松下 玲子
まつした れいこ

【松下玲子プロフィール】1970年生まれ。実践女子大学卒業後、民間企業で8年間の勤務後、早稲田大学大学院修了、(財)松下政経塾での研修を経て、2005年都議初当選。現在、2期目。都議会財政委員会委員(2012年4月4日付厚生委員会委員長より変更)。家族は夫(会社員)と子ども。

都政報告会 **開催**

どなたでもお気軽にご参加ください

5月23日(水) 19:00~20:30

[開場時間 18:30]

会場/武蔵野公会堂2階 第1・2合同会議室

武蔵野市吉祥寺南町1-6-22(吉祥寺駅南口徒歩3分)



都政報告会テーマ 児童虐待防止対策、外環の2、その他意見交換

Pick Up 01 東京のがん対策を加速 都議会民主党の条例提案!

平成24年第1回都議会定例会が、3月29日に終了しました。都議会民主党は、今定例会に議員提出議案第1号「東京のがん対策推進条例」を提出しました。男性の2人に1人、女性の3人に1人はがんに罹るといわれており、東京では毎年3万人が、がんで亡くなっています。



議会質問や予算要望などががん対策の推進を求めてきましたが、東京のがん死亡率は全国平均より高く、検診受診率も3割台と低迷。そのため、医療関係者・患者団体などからのヒアリング、視察を経て、条例案をまとめました。内容は、都民ががんについて学ぶ機会作り、予防と早期発見行動、受動喫煙防止、がんに罹っても適切な医療を選び、精神的・肉体的・社会的苦痛を軽減し、地域で良質な医療を受けられるようにするものです。結果は、賛成61、反対62、自民・公明などの反対で否決。今後も、会派を超えてがんと闘う東京都議会を目指して取り組みます。

Pick Up 02 東京湾沿岸地域の地震津波対策に取り組み

首都直下地震に備えて減災対策の更なる推進を!

東京湾沿岸地域には都市機能が集積しているため、都は、津波低減効果を持つ防潮堤や水門などの耐震・耐水化を推進し、江東区においても、津波等の水害時に安心協定を企業と結び、一時避難施設の提供を受けることとなっています。

都議会民主党は、都が安全な津波避難ビル・マンションの指定に向けた区への支援をはじめ、東京湾沿岸地域における津波等の減災対策に取り組むべきと訴えました。また、戦後最大の人的被害をもたらした東日本大震災からの復旧・復興に取り組んでいる現在、首都直下地震が発生し、被災することは日本にとって最悪のシナリオです。その地震動は、震源となる地下のプレートが従来の想定よりも浅いことが判明し、それによって、震度6強の揺れの範囲が広がるとともに、震度7の揺れが起こる地点も出るなど、日本の中枢機能の被災や人的被害、日本経済全体への損害が大きくなる懸念されています。そこで都議会民主党は、首都直下地震対策の更なる推進を求め、知事は、日本のために、全ての備えを固め、首都東京の防災力を高度化すると答えました。



松下玲子 一般質問特集号 質疑抜粋

◆松下玲子は3月1日(木)都議会本会議で一般質問を行い、知事並びに警視総監、関係局長に以下大きく3つの都政の課題について質問しました。
 増え続けている児童虐待防止対策に最も時間を使い7問、杉並区での里親による里子虐待死の事件についても調査を行

い質問しました。知事が定例記者会見で、その存在を知らなかったかの発言を行った外環の2について2問質問後、知事が答弁に立たなかったため再質問もしました。そして、八ツ場ダムに関連して水資源について2問、持ち時間15分で計12問質問し、政策提言を行いました。

子どもの命を守るため、児童虐待防止対策を進展させよ!

Q 松下 / 一昨年8月、東京都が里親家庭に委託していた児童が死亡するという大変痛ましい事件が起きた。二度とこうした事件が起きることがないように、児童虐待防止対策を進展させなければならないと考える。そこで、警視庁としての児童虐待防止対策の取り組みについて伺う。

A 警視総監 / 警視庁では、児童虐待そのものずばりの通報や相談を受けた場合はもちろんのこと、児童虐待の可能性をうかがわせる情報を入手した場合にも、安否確認のためのあらゆる現場措置を講じるなど、適切に対応していく。

Q 松下 / 虐待の疑いが持たれる兆候や小さなサインも見落とさずに、あらゆる機関が連携して子どもの命を守らなければならない。児童相談所と警視庁がより連携を深めて児童虐待防止に取り組むべき。

A 警視総監 / 昨年の12月、警視庁の生活安全部と東京都福祉保健局との間で、具体的な連携の中身に踏み込んだ確認書を締結した。

主な内容は、職員が相互の研修会に参加してお互いの実務的な知識やノウハウを習得、児童相談所の現場執行力の強化を支援するために警察官OBを配置することの2点。児童相談所との連携をさらに強化を図り、児童虐待の未然防止、悲惨な結果の防止に努めていく。

Q 松下 / 杉並里子死亡事件を教訓として、今後里子と里親に対する支援をどう強化していくのか。

A 福祉保健局長 / 今回の事件を受け、都は養育家庭の方々から改めて相談支援の現状に関する意見や要望を

伺った。来年度からすべての里子に対して心理面接も定期的に行い、児童の発達状況に応じて支援内容を見直ししながら、里親に対し養育上の助言を行っていく。

さらに、民間団体等を活用して、相談支援を行う里親支援機関事業をすべての児童相談所に拡大し、新たに夜間休日の養育相談や定期的な訪問なども実施する。

Q 松下 / 虐待ではないかと疑い、あらゆる角度から診察をする、院内虐待対策委員会の設置を進めるべき。どういった病院に院内虐待対策委員会を設置すべきと考え、対象施設はどのくらいであり、現在の設置数はいくつか。

A 福祉保健局長 / 平成19年度から、産科、小児科を有する二次医療機関と二次及び三次救急医療機関を対象として、児童虐待への組織的対応を担う院内虐待対策委員会を設置してもらうよう、各児童相談所で働きかけを行っている。都内対象医療機関は約300中、平成23年6月現在、57の医療機関が委員会を設置している。

Q 松下 / 子どもを大切にしない国に未来はない。里子死亡という重くつらい現実を受けとめ、亡くなった子どもに学び、生きている子どもを守るため、東京都全体で児童虐待防止に取り組むべき。知事の見解を伺う。

A 知事 / 児童虐待は子どもの心に深い傷を残すだけではなく、子どもたち一人一人が持つ未来への可能性を奪う。人として決して許されるものではない。今回の事件で、これまで心血込めて子どもたちを育ててきた多くの養育家庭の労苦や努力を無にしてはならない。

都は、専門機関である児童相談所の体制を強化するとともに、民間の力も活用した里親支援事業を充実させ、区市町村、学校、医療機関など地域の関係機関と一体となって、児童虐待の防止に全力を挙げて取り組む。

外環本線地下にしたのに、地上にも都道(外環の2)?! 現地視察と地域住民との意見交換を知事に要望

Q 松下 / 平成14年の都市計画法の改正により、都市計画提案制度という新たな仕組みが創設された。土地所有者やまちづくりNPO等が、地域の合意等一定の条件を満たした上で、都市計画について提案できる仕組みだが、残念ながらまだ実績はない。都民から既に決定している都市計画道路について変更や廃止の提案があった場合、わかりにくい点を丁寧に説明し、受理をするために努力するべきと考えるが、見解を伺う。

A 都市整備局長 / この制度による提案は、都市計画の決定、変更を求めることになる機能が確保できることを示す資料等の提出を求めており、提案者は、これらの資料の中で良好な環境や防災、交通、衛生等の都市の機能が確保できることについて明らかにする必要がある。このため都では、説明用の冊子を作成するとともに、事務処理要領において、計画提案を行おうとする者に対し、当該提案に必要な技術的助言等の支援に努める。

Q 松下 / 平成17年に外環本線が大深度地下方式に変更されたとき、東八道路以南の附属街路は廃止されたが、東八道路以北の外環と一体だったはずの地上部街路は廃止されず、現在もなお計画が残る。外かく環状道路地上部街路、外環の2について、知事の現状認識について伺う。

A 都市整備局長 / 地上部の道路は都内の都市計画道路ネットワークの一部であり、地域の利便性向上など、高速道路の外環本体とは別の機能を持つ道路として計画されている。この道路については、関係区市等から出された要望を踏まえ、広く意見を聞きながら検討を進めることとしており、現在、整備のあり方などに関して話し合いの会などを開催している。



松下玲子の視点 — Viewpoint —

3年前「子育てしやすい東京へ」を掲げ、武蔵野市民の皆さまの付託を受け、2期目都議会にお送りいただきました。現在、幼い子どもを育てている母親として、子育て当事者の視点で子育て支援や児童虐待防止対策に取り組んでいます。今回一般質問で、杉並里子虐待死亡事件を取り上げたのは、亡くなった里子と同年代の子どもを持つ親として、何故このような事件が起きてしまったのか詳細に調査を行い、二度とこのような事件が起こることがないようにしなければならない、という使命感を持ったからです。

調査の過程では、虐待のあまりにも残酷な現状に涙が溢れ、つらく悲しく茫然自失することもありました。寝る前には亡くなった里子の冥福を祈り、手を合わせる毎日でした。どうしたら虐待をなくすことが出来るのか、自問自答の毎日でした。

児童虐待数は年々増加し、全国では子どもの命が6日にひとりの割合で失われています。この現状を改善すべく、児童虐待防止対策について調査、研究、ヒアリングを行い、海外では取り入れられているチャイルド・デス・レビューを東京都でも研究し取り入れることなど、今回の一般質問を通じて都に提言しました。

子どもを大切にしない国に未来はありません。虐待死という辛く悲しい現実に向き合い、子どもの死から学び、生きている子どもを守る為、今後も全力で取り組む所存です。

また、東京都選挙管理委員会で32万筆の有効署名が確認され、原発再稼働の是非を直接問う都民投票条例が、6月に開会の第2回定例会に提出される予定です。都議会民主党は、この条例案に賛成するか反対するか、意見集約のための議論を始めました。私、松下玲子は、民主主義の基本である都民投票条例に賛成の立場で、都議会民主党がまとめることが出来るよう、しっかりと議論して参りたいと考えています。

これらの課題について、後日開催する都政報告会で、皆さまからご意見ご要望を伺えれば幸いです。

ご意見・ご要望をお寄せ下さい

FAX.0422-50-0697 E-mail reiko@matsushita.name

都議会民主党武蔵野支部 都議会議員

連絡先

松下 玲子 事務所

〒180-0006 武蔵野市中町1-3-2 ハウスプランニングビル402

TEL.0422-50-0696 FAX.0422-50-0697 E-mail reiko@matsushita.name

